



Kobe Shoin Women's University Repository

KARASHI-DANE

影印 神戸松蔭女子学院大学図書館蔵『絵本義経一代実記』

著者	信太 周
著者別名	SHIDA Itaru
雑誌名	文林
巻	43
ページ	1-34
発行年	2009-03-10
URL	http://doi.org/10.14946/00001581



影印 神戸松蔭女子学院大学図書館蔵『絵本義経一代実記』

『絵本義経一代実記』（勝川春章画）は、早く、島津久基著『義経伝説と文学』（昭和10年刊）第三章「近世の義経文学」等に取り上げられるなど広く知られている絵本であるが、ここに影印紹介するのは、神戸松蔭女子学院大学図書館蔵本（五巻五冊、縦二〇・五、横一四・五糎）である。序に〈義経一代実記〉〈丁未正月 勝西爾春章書〉等とあり、『東京大学所蔵草雙紙目録 初編』（青裳堂書店）に載る総合図書館蔵『絵本義経一代実記』（中本）と、板元の住所に一部違いはあるものの、刊記を同じくして本文は同じである。東京大学総合図書館蔵本の刊記は、埋木で〈天明七年歳次丁未春／東都書肆 鶴屋喜右衛門／大伝馬町三丁目丁子屋平兵衛販〉とあり、また、丁子屋平兵衛は天保十四年に大伝馬町二丁目に移転したとされるが（『東京大学所蔵草雙紙目録』、本学図書館蔵本の板元丁子屋平兵衛は〈小伝馬町三丁目〉と記されている。丁子屋平兵衛が江戸小伝馬町三丁目から大伝馬町二丁目に移転したのは天保七年とする説もあるなど判然としないものの（井上隆明著『改訂増補近世書林板元総覧』青裳堂書店）、何れにしても本学図書館蔵本の方が早い刊行である。なお、『東京大学所蔵草雙紙目録』には、他に、〈表紙は備えているものの初版本とはいいたい〉〈中本よりやや大きく、縦二〇・二、横十四・五糎〉として、刊記〈天明七年歳次丁未春／板元通油町鶴屋喜右衛門〉とする総合図書館蔵『絵本義経一代実記』も載せている。

『平家物語』享受の資料として錦絵に着目し、その資料価値については既に度々言及したところであるが、三枚続

武者絵の創始者とされる（岩切友里子「勝川春亭考」、『浮世絵芸術』平成8・7）春亭画「新板一ノ谷合戦図」（天明後期）など、一の谷合戦を描いた錦絵の中に、教経討死の場面を配置したものが散見する。『平家物語』に登場する、おなじみ忠度最期、敦盛最期、盛俊最期等は当然のこととして、『平家物語』には見当たらない教経一の谷合戦での討死との絵様は、『平家物語』享受という点では注目すべきことである。一の谷合戦を彩る戦場美談の双璧は敦盛最期・忠度最期に尽きるが、歌川貞秀画「源平一之谷大戦高名之図」（安政四年）は、敦盛最期（左面）・忠度最期（中面）と並べて、三枚続錦絵の右面に、堂々、教経最期の場面を描いているほどである。

教経の死については、『吾妻鑑』は一の谷合戦での討死、『醍醐雑事記』は壇の浦合戦にて自害というように、古くから説の分かれるところで、現今の歴史学者また未だにこの課題を引き摺る。教経一の谷合戦での討死との設定は、『平家物語』に展開する、一の谷合戦以後の屋島合戦・壇の浦合戦における教経の奮戦との設定との食い違いという問題が生ずることになる。この点に関しては、馬場信意『義経勲功記』（正徳二年）に始まる「一の谷合戦で教経は安田義定・甥の一条次郎忠頼に討たれ、以後、紀小次郎が身代わりとなり教経を名乗った」とする身代わり説がある。春亭画錦絵「八嶋檀ノ浦合戦」（天明期）——前方に次信を射殺す教経、後方には安芸太郎・次郎を両脇に抱えて小舟に乗る教経との絵様は、一見『平家物語』の屋島合戦・壇の浦合戦での教経の華々しい活躍を描いているかに見えるが、『絵本義経一代実記』等をなぞるかのように、教経に射殺された次信の傍らに、次信の弟忠信に斬り殺され倒れ伏す紀の九郎を描くなど、“この教経は身代わり紀小二郎なり”と謎解きさせようとする浮世絵師の仕掛けとの可能性も否定できず、錦絵をして『平家物語』享受の資料とすることは一筋縄ではないかない。

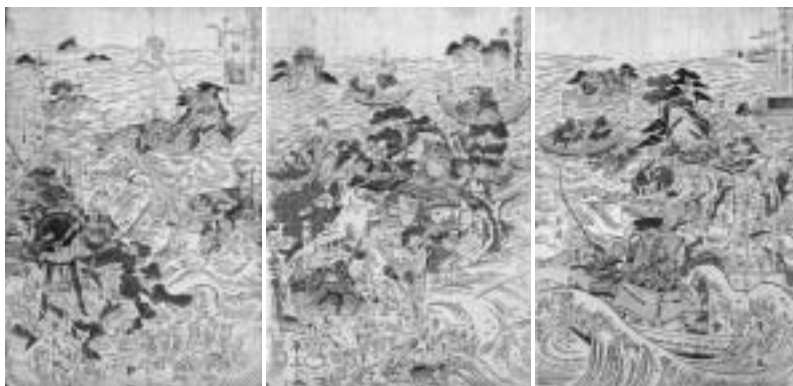


春亭画錦絵「八嶋檀ノ浦合戦」(部分)

錦絵において、『平家物語』には見られない挿話を配置、それによって生ずる矛盾を、身代わり説を取り入れてまで教経一の谷最期にこだわった真意は何か。右に記したような浮世絵師の仕掛けを推測すると事は単純ではないが、『義経勲功記』がダイジェストされて、『絵本義経記』(北尾重政画、安永二年)、黄表紙『義経一代記』(鳥居清長画)、『絵本義経一代実記』などとして刊行され(黒石陽子「黄表紙『義経一代記』にみる義経伝承」、『東京学芸大学紀要 人文科学』49)、これ等が教経一の谷合戦での討死挿話を画題とする錦絵の種本となった(岩切友里子説)という道筋を考える時、錦絵と相俟って、『絵本義経一代実記』等が大いにもてはやされた様が窺えて興味深い。

浮世絵師勝川派の系譜、春章―春英―春亭と続く師弟関係を重く見て、錦絵の画題「教経一の谷合戦での討死」に関わり、あえて、『絵本義経一代実記』(春章画)を影印紹介する所以である。

(解説 信太 周)



春亭画錦絵「八嶋檀ノ浦合戦」



